



厚岸湖・厚岸湾の主要沿岸景観の広域解析



仲岡 雅裕¹・渋谷 辰生²・山北 剛久³・渡辺 健太郎³

¹北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸実験所, ²厚岸町立厚岸水鳥観察館, ³千葉大学大学院理学研究科

【概要・目的】

北海道東部に位置する厚岸湖・厚岸湾は、人為的開発の影響の少ない良好な水域が残っており、ラムサール条約にも登録されている。しかし、近年、地球温暖化と関連する生態系の変動の兆候が指摘されている。本研究では、厚岸湖・厚岸湾の水域において、主要な生態系を構成する景観要素である干潟、岩礁潮間帯、藻場を対象に、衛星画像データ、航空写真、小型係留気球等の複数の異なる手法によりその広域分布を把握する。得られたデータをGISにより解析することにより、主要景観要素の空間配置および連続性を明らかにし、今後の地域社会の沿岸利用計画作成に向けた基礎資料を提供する。

【厚岸湾・厚岸湖の主要景観】



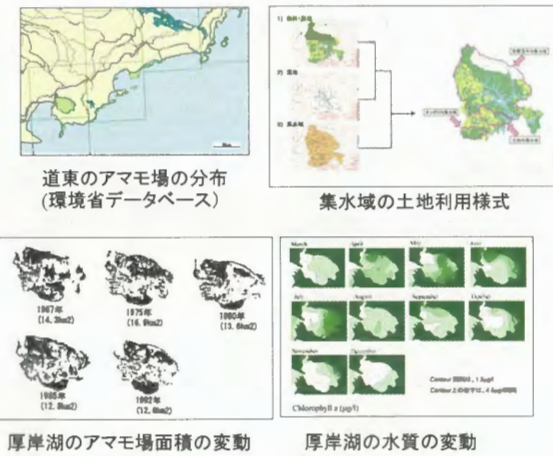
【広域情報データベースの基盤整備】



【研究拠点】



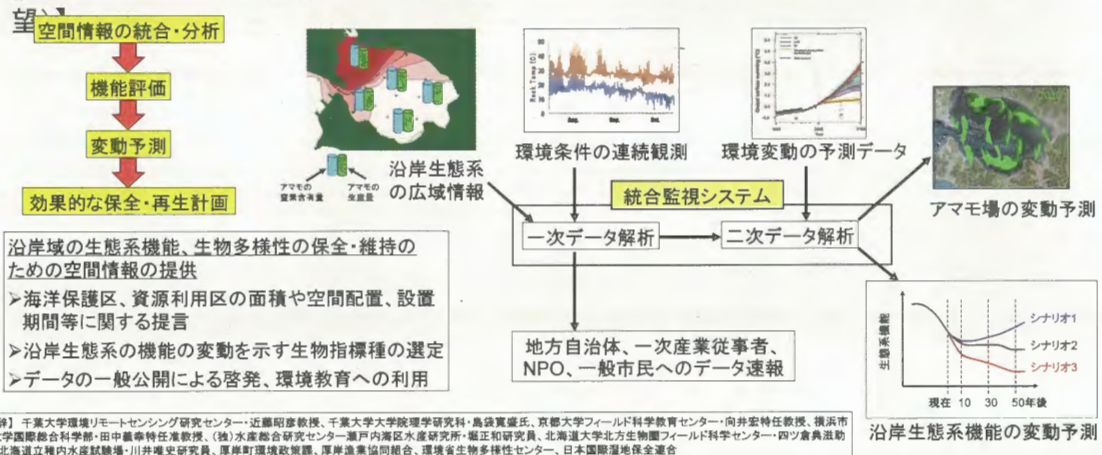
【広域スケールでの空間情報】



【局所スケールでの空間情報】



【GISデータベースの整備とその利用(展望)】



【謝辞】 千葉大学環境リモートセンシング研究センター・近藤昭彦教授、千葉大学大学院理学研究科・島袋寛彦氏、京都大学フィールド科学教育センター・向井安特任教授、横浜国立大学国際総合科学部・田中義幸特任准教授、(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所・巖正和研、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・西川真典准教授、北海道立種内水産試験場・川井雄史研究員、厚岸町環境政策課、厚岸漁業協同組合、環境省生物多様性センター、日本国際環境保全連合